

02.ローマ：トレビの泉、スペイン広場、コロッセオ



ローマは 2000 年前地中海を中心に西アジア・北アフリカ・ヨーロッパにまたがる多くの民族を抱えたローマ大帝国の中心地であった。ローマの現在の都市形成はローマ帝国時代の優れた都市計画によるものであり、都市中心に広場(フォロ)→神々の神殿→役所→公共浴場・食堂・酒場・市場と共有施設を中心にその周辺を囲うように市民生活に必要な施設が放射状に広がっていくような都市計画である。

トレビの泉は古代ローマ時代に皇帝アウグストゥスが作らせたヴィルゴ水道の終端施設として作られた。後ろ向きでコインを泉へ投げ入れると願いが叶うという言い伝えがある。

スペイン広場は映画でも有名な 135 段の大きな階段が印象的である。この階段はフランス外交官の寄付で完成した。

階段の上には 16 世紀に完成したフランス教会のトリニタ・モンティが建っており、当時は丘の上のこの教会と下のスペイン広場は崖で区切られていて行き来はとても大変であった、そこでフランス側の寄付でここに大使館があったスペインとフランス両国間の平和を願って 1725 年にこの大階段は建設された。

コロッセオは皇帝ウェスパシヤヌス帝が建てさせたもので西暦 80 年に完成し、正式名称は「フラウィウス朝の円形闘技場」と言う。建物規模は周囲 527m・高さ 48.5m。帝政時代の皇帝や元老院議員達による、市民への人気取り＝娯楽提供の場の代表する建築である。現在の姿が欠けているのは中世以降に教会や貴族の館を建設する為に切り崩して使われたからである。

(新井 孝俊)